2月 28 日広報部会時点

小菅ケ谷地区

地図

地区の概要

本郷台駅を中心とする地区で、小菅ケ谷一～四丁目、小山台一～二丁目、小菅ケ谷町、鍛冶ケ谷町と飯島町及び桂町の一部から構成されています。電車、バスの利便性がよく、駅周辺にはリリス、あーすぷらざ等の大規模施設があり、栄区の文化ゾーンを形成しています。いたち川流域には、緑豊かな落ち着いた町並みが続きます。

昭和 40 年代後半に開発された地域では人口の減少と高齢化が進んでいますが、駅前や幹線道路沿いのマンションに若い世代の流入が目立ち、子育て世帯の割合が多くなっており、地区全体では高齢化率は区平均より下回っています。

今後進められる本郷台駅前開発により、地域の活性化が期待されます。

地区の特徴から考えること

・小菅ケ谷北公園など自然豊かで集える場が多く、今後も本郷台駅前の活用等、つながりを中心とした取組が大切です。

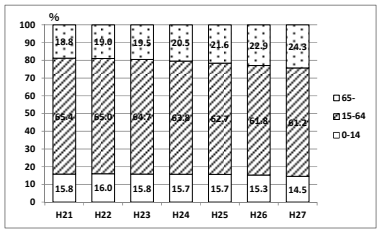
・本郷台駅前の開発もあり、今後も子育て世帯の転入が予測されます。地域のつながりのきっかけづくりが求められています。

・高齢化が進む中、介護予防など自分に合った健康づくりの機会が身近な地域の中で見つけられるようにすることが大切です。

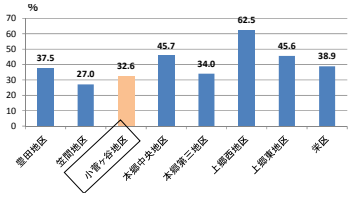
・住宅地の開発により転入者が多い地域です。災害時等に備え、平常時からのつながりづくりが重要です。

小菅ケ谷地区の統計データ

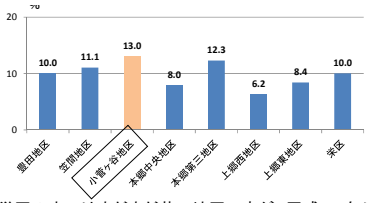
年齢構成の推移 （横浜市ポータルサイト町丁別インデックス栄区登録者数世帯と男女別人口各年 3 月末現在)より作成



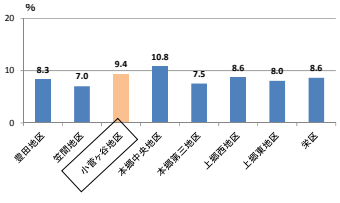
65 歳以上の方のいる世帯率（国勢調査 H.22）



6歳未満の子のいる世帯率（国勢調査 H.22）



65 歳以上の単身世帯率（国勢調査 H.22）



・栄区の中ではまだまだ若い地区ですが、平成 37 年には高齢化率 24.8%となると予測されています。

・栄区の中でみると、65 歳以上の方のいる世帯は少ない現状ですが、65 歳以上の一人暮らしの方は多くなっています。

・6歳未満の子のいる世帯率は区内で一番高く、若い世代が多く関わりは引き続き大切です。

策定の経過

取組主体： 小菅ヶ谷つながるプラン推進会議

【小菅ヶ谷地区社会福祉協議会】

【町内会・自治会】

・小菅ヶ谷町内会・小菅ヶ谷睦会町内会・春日町内会・小菅ヶ谷五月会・大船富士見台自治会

・本郷台駅前市街地住宅自治会・市営小菅ヶ谷住宅自治会・市営本郷台住宅自治会・市営小菅ヶ谷第二住宅自治会

・小菅ヶ谷第一町内会・本郷台中央自治会・東武本郷台自治会・小菅ヶ谷西谷戸町内会・小山台町内会

【各種団体】

民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会、青少年指導員連絡協議会、スポーツ推進委員連絡協議会、消費生活推進員会、防犯指導員、環境事業推進委員会、交通安全母の会、子ども会育成指導者連絡協議会、シニアクラブ連合会

【ボランティアグループ】

【その他】 栄区生活支援センター、保育園

開催の状況

・推進会議：全町内会自治会、地区社協、各種団体等が参加し、計画の推進と第3期計画策定を進めました。
平成 27 年度は3回開催しました。

・企画委員会：平成 27 年度は、策定のために構成メンバーを見直し、策定作業を進めました。8回開催しました。

・懇談会：地域の新たな活動者から意見をいただくために懇談会を開催し意見交換を実施しました。
第 1 回（8月 18 日）：活動から見える地域の現状・課題、将来像について　第2回（10 月5日）：今後の取組について

こんなまちにしたい

・誰もが気軽に集まれる場が身近にあるまち。

・地域の中で自然にあいさつが交わされるまち。

・子育て世代への理解、障害や認知症への理解が広がり、いろいろな世代の交流があるまち。

・心もからだも生き生きと過ごせるまち。

・顔見知りの関係が広がり、災害時も普段も安心して暮らせるまち。

小菅ヶ谷の魅力をお伝えします

豊かな自然に恵まれた小菅ヶ谷では、昔ながらの伝統行事が受け継がれつつ、新たな活動も始まっています。

レクリエーション大会

小菅ケ谷北公園

ラジオ体操会

小菅ヶ谷つながるマップ

敬老会

どんど焼

ひだまり

いきいき小菅ヶ谷

小菅ケ谷地区　：　みんなでつくる　ふるさと　小菅ヶ谷

テーマ	課　題	将来像（目標）	取組内容（例）	取組団体	セーフコミュニティ
地域の中でつながろう	・新しい方が地域活動に入りやすいようなアプローチが必要。 ・地域の行事や各種イベントに関する情報提供の仕方に工夫が必要。 ・地域活動者同士の交流が少ない。 ・地域の中の福祉施設（保育園や高齢者、障害施設等）との交流が少ない。 ・高齢者の活動する場が少ない。 ・地域の中で見守りについて考える必要がある。 ・障害理解が不十分に感じる。	・多世代の人が交流できる地域のイベント等が増えている。 ・若い層が積極的に地域活動へ参加する地域になっている。 ・日常の中で積極的に挨拶をする地域になっている。 ・身近な所に気楽に集える場ができている。 ・施設や学校と交流の機会ができている。 ・障害理解が広がっている。	・新規サロンの立ち上げ等、いろいろな世代が交流できる場づくり。 ・地域活動のさらなる周知や情報発信。 ・つながるマップを活用した交流イベントの開催。 ・参加しやすいボランティア活動や、地域役員を引き受けやすいきっかけづくり。 ・見守りのポイントの共有と、見守り体制づくり。 ・日頃からの誰でも挨拶できる環境づくり。 ・施設や学校との交流。 ・認知症や障害理解を深め、地域で支えあう仕組みづくり。	・町内会自治会 ・小菅ヶ谷地区 社会福祉協議会 ・民生委員児童委員協議会 ・保健活動推進員会 ・青少年指導員協議会 ・スポーツ推進委員 連絡協議会 ・消費生活推進員会 ・防犯指導員 ・環境事業推進委員会 ・交通安全母の会 ・子ども会育成指導者 連絡協議会 ・シニアクラブ連合会 ・ボランティアグループ、 自主活動団体(サークル) ・福祉施設 ・保育園 ・地元の商店	高齢者 安全 子ども安全 自殺予防
地域で子育てを応援しよう	・地域の中の保育園・幼稚園等の情報が周知されていない。 ・未就学児の遊び場所が不足している。 ・小学生の居場所が不足している。 ・登下校の見守りが必要。 ・子ども達が参加できる地域イベントが知られていない。 ・子育て世代の声が反映できる工夫が必要。	・子育て世帯への理解が広がり、子育てしやすいまちになっている。 ・子どもが気軽に参加できる居場所が増えている。 ・児童虐待の早期発見・予防のための、あたたかな見守りができている。 ・父親が子育てに参加できるきっかけが地域にある。 ・子どもが地域に愛着を持てるようになっている。	・地域資源を活用し、若い世代と地域をつなげるきっかけづくりと参加の促進。 ・子どもの見守りの推進（子どもの虐待・いじめの防止）。 ・世代間交流事業の実施。 ・親子が気軽に集える場づくり。 ・放課後の居場所づくり。 ・子育てに関する相談場所の周知。 ・子育て世帯を地域で支える仕組みづくり。 ・若い世代の活躍の場づくり。 ・小中学生と赤ちゃんのふれあう場づくり。		子ども安全 児童虐待 予防 交通安全 防犯
健やかな心と体を育てよう	・健康づくりに関する活動の参加者が固定化してきている。 ・高齢化が進む中、介護予防の取組が重要となってくる。 ・高齢化が進み認知症の方が増加し、徘徊等の問題が表面化してくる。 ・子ども同士が遊ぶ機会が減り、社会性が育ちづらい環境になっている。	・地域の中で健康づくりのメニューが増えている。 ・健康寿命が伸びるように、健康習慣を継続する場があり、仲間が身近にいる。 ・心の健康への理解が広がっている。 ・認知症の理解が進んでいる。 ・誰もが孤立しない地域になっている。	・既存の活動を活かし、楽しみながら誰でも参加できる健康づくり。 ・地域の色々な行事の中でラジオ体操を広げる。 ・豊かな自然の中で、ウォーキング等を通じた健康づくりが広がっている。 ・参加者同士のつながりを意識した健康づくりの機会をつくる。 ・若い時から運動に取り組むきっかけづくり。（ロコモ度チェック等） ・元気づくりステーション等、介護予防の取組の推進。 ・認知症や障害理解のための講座の開催。		スポーツ・ 余暇安全
災害時に備えた平常時からの要援護者支援に取組もう	・町内会自治会の規模や体制により、支援の仕組は様々となっている。 ・災害時要援護者支援についての理解が行き渡っていない。 ・一人ひとりの災害に対する意識や準備の啓発が必要。 ・日頃から近所同士で見守りあえる関係を地域全体に広げる必要がある。	・近所のつながりが深まり、近所同士で見守り合えるような関係ができている。 ・自然に声をかけ合うことができる地域になっている。 ・小さな単位（班・組）での防災訓練をすることで、顔のつながりが広がる。 ・一人一人が災害の対策を考えている。 ・地域の中で支援が必要な人について理解が深まっている。	【日常での取組】 ・災害に対する個々の意識を高めるように、住民向けの研修会・講演会を開催する。 ・日常から顔見知りの関係をつくり、隣近所など身近な地域の中で支えあえる関係を広げる。 【災害時に向けた取組】 ・町内会単位での防災訓練の実施。 ・各町内会自治会の取組の情報交換。 ・共通課題に関する研修会等の開催。		災害安全